

「トピックス」 令和7（2025）年度

第2回 「部活動の地域連携」

私は、公立中学校の教員として27年間、ソフトテニス部の顧問として部活動に熱心に取り組んできました。また、この文章を読まれている皆さんも中学校時代、それぞれの部活動で充実した日々を送られていたのではないのでしょうか。その部活動が今変わろうとしています。それが、「部活動の地域連携」です。具体的に言えば、中学校等で行っていた部活動を、地域のクラブ等が実施するというシステムです。

令和4年12月にスポーツ庁から出された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、

○少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。

○部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

と、今後の部活動の在り方が示されました。

それでは、部活動の地域連携にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

*メリット

1 地域社会との連携強化

学校と地域が協力して活動を行うことで、地域全体の教育環境が向上します。

2 多様な指導者の確保

専門的な知識を持つ地域の指導者を活用でき、部活動の質が向上します。

3 新たな交流の機会

他校の生徒や地域住民との交流が増え、社会性やコミュニケーション能

力が向上します。

4 地域活性化

部活動が地域のイベントや活動に参加することで、地域全体の活気が増します。

5 多様な学びの機会

学校の外での活動を通じて、生徒がさまざまな経験を積むことができます。

6 生徒の自主性向上

自分たちで企画・運営を行う機会が増えることで、生徒の自主性が育れます。

7 新たな資源の活用

地域の施設や資源を活用できるため、学校内での限られたリソースに依存せずに活動が行えます。

8 保護者の関与増加

地域での活動に保護者が参加しやすくなり、家庭と学校の連携が強化されます。

もちろんメリットだけではなくデメリットも考えられます。

*デメリット

1 一体感の低下

学校内での活動に比べ、地域での活動は一体感が薄れる可能性があります。

2 施設の利用制限

地域の施設が常に利用できるとは限らず、使用できる時間や場所が制約されることがあります。

3 責任の所在が曖昧

学校と地域の責任分担が不明確な場合、トラブルが発生する可能性があります。

4 地域間の格差

地域によっては指導者や施設の質に差があり、均等な環境での活動が難しい場合があります。

5 調整の難しさ

地域との連携がうまくいかない場合、スケジュール調整や運営の難しさが発生します。

6 費用の負担

地域移行に伴い、新たな費用負担が発生する可能性があります。

7 生徒の移動時間

学校以外の場所で活動する場合、移動時間が増え、学業や他の活動への影響が考えられます。

8 安全面の懸念

外部で活動することで、安全管理が難しくなる場合があります。

本町では、部活動の地域連携について、令和6年度に第3者委員会を設置し、「中学生の安芸太田町らしい文化芸術及びスポーツの在り方」について検討しています。

地域のスポーツ・文化芸術団体等と連携・協働し、本町の実情に応じながら部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動への移行展開に向けた環境の一体的な整備を進める必要があります。

先日、「教育振興基本計画」の策定にあたり、小学校児童会の代表の皆さんと「話す会」を持ちました。その中の話題の一つが中学校の部活動についてでした。要約すると、「今地域でスポーツ活動に取り組んでいる。地域の方々が熱心に指導してくださっている。ところがそのスポーツの部活動が中学校にはない。中学校に部を作ってほしい。」というものです。

地域の方々や校長先生などおとなの皆さんと部活動の今後について話をさせていただく機会は少なくありません。しかし、今回のことが話題に上ったことは一度もありませんでした。よく考えているつもりなのに実際はこどもたちのことがよく分かっていなかったにも関わらず、おとながすべて決めようとしてしまっていたと心が痛みました。

今後は、「部活動の地域連携」の主人公であるこどもたちの意見を尊重しながら、地域の皆さんといっしょに、安芸太田町らしいスポーツ及び文化芸術活動の在り方を、検討していかなければなりません。中学生一人一人がやりたいことにチャレンジできる、そんなこどもファーストの地域連携ができればと心から願っています。